

ラムサール条約登録湿地から自然を学ぶ事業（公開用レポート）

大沼ラムサール協議会では、アサヒスーパードライ寄付記念助成金で、子供達の環境学習事業と大沼が条約湿地に登録されて2年目ということで、町内外へ情報を発信するためにPR用のポスターとパネルの製作事業を実施しました。

環境学習では、「次世代である子供たちに自然を好きになって欲しい。好きになると労わる気持ちが生まれ、必然的に保全に繋がる。」という自然に対する意識高揚を目的として、地域の子供たちを募集し、大沼ラムサール隊を結成。大沼や流域の自然観察や生物調査など年間で6回の活動をしました。



沼と川で行った水生生物調査では、「住んでる場所によって生き物の特徴が違う」、「沼の中には思ったより色々な生き物がいてびっくりした。」などの感想があり、「またやってみてみたい！」という自然に触れる楽しさに気づいてくれた嬉しい声もありました。その声に答えて、再度違う水辺で調査したときには、「様々な生き物がいて上手く共存しているんだなと思った。」という、大人顔負けの発言も！

また、船に乗り沼での観察の際にはアオサギを発見したり、採取した水を顕微鏡で観察し微生物の存在にも気づき、命の繋がりを学びました。

これらの体験を重ね、「他の湿地はどんなのだろうか？」という関心も芽生えてきたみたいです。そこでいよいよ宮島沼でマガレンジャーとの交流学习会！子ども同士で活動や湿地の紹介をしたり、ヨシ笛づくりや生き物調査、水質検査などの学習を2泊3日で行いました。参加した子供達は、マガレンジャーの紙芝居を真剣な眼差しで見しており、人と鳥との距



離感・共生について学びました。また、植物を使って遊んだり、宮島沼や水路で生き物調査をしながら自然に触れ、多様な生態系も感じてくれたと思います。水質調査では大沼と宮島沼の違いがあることも発見していました。レポートには「研修にたくさん参加したい。」「いい環境をつくりたい。」「まだまだわからないことがあるので学校などで学習したい。」など、とても嬉しい感想ばかりです。この経験は子供達の財産となり、自然に対してきっと優しい気持ちを持ち続けてくれると確信しています。

一見遊んでいるだけかもしれませんが、しかしながら自然に触れる機会が減っている今こそ、自然の中で楽しく遊んだり同世代で交流するなかで、「面白い・楽しい」など素敵な思い出がくれた人こそ、大人になっても自然に対して関心をもってくれるはずです。蔑にしような環境保全に関わってくれる人材育成だとも考えます。環境保全・生物多様性を考える人を一人でも多くするために今後もこのような活動を続けていきたいと思っています。

PR用ポスターとパネルについては、自然に対する意識高揚を目的として各種環境イベント等に活用してまいります。